

地域創生に思う



公益社団法人 岐阜県都市整備協会

専務理事 田 口 好 介

都市間の競争が激化する中で『地域創生』が叫ばれている。

たしかに、東京をはじめ一部の中心都市に入々が集中する反動として、地方は活力低下や地域間格差に直面している。

人口減少のもとで人が大都市ばかりに集中すれば、やがて地方は衰え、国が衰退するであろう。

新聞紙上を中国人の爆買が賑わせている。おかげで我が国が潤っているのは確かだがなぜか釈然としない。爆買だけが目的の旅行客がはたして定着するのだろうか。

以前は私達も、国内では買えないブランド品を求めてグアムや香港、果てはヨーロッパにまで押し寄せていた。が、今ではそのような欲望をあまり持ち合っていないようだ。

欲しいものは何でもネットで手に入るこの時代、似かよった大型商業施設やチェーン店、仕掛けられた公共の空間、これらに飽き飽きしてしまったのかもしれない。

ではなぜ、それでもいそいそと旅行に出かけるのか。

そこでしか買えない逸品、そこだけの個性的な商店街、風景、歴史や文化、そんな空気感を味わいたいからではあるまい。

知らない街をぶらつき、言葉は通じなくても知らない誰かとほんの少し触れ合い、偶然にも自分だけの何かを発見する。

そんな旅そんな街には惹かれる。

永年暮らしていると足元は見えにくい。見えない物、見えない事に気づくには『よそ者若者ばか者』の存在がある。固定化され硬直化した人間関係に異分子が入り込めば、良くも悪くも活性化する。

しかし、異分子でもある彼らはシャイで身が軽く、受け入れ側の意識に敏感であろう。

新たな価値を見出することは、これまでの地域に波風を立てることに他ならない。せっかちに定住を勧め地域に縛り付けようとすれば、やがて彼らは立ち去るか異分子では無くなってしまう。

異分子を呼び込もう。

彼らと協力して独特な個性と求心力を創造しよう。

オンリーワンの街にはやがて惹きつけられた旅人がやって来る。

賑わいは更なる賑わいを呼ぶ。

ブランド力が上昇した我が街に異分子も定住する。